

# 第12期研究費部会における科研費の改善・充実及び今後の議論の方向性について（中間まとめ）【概要】

令和6年6月24日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会

## 1. 我が国の学術研究をめぐる現状及び課題

- 学術研究をめぐる現状として、論文指標の国際的な順位が下落するなど、**我が国の研究力は相対的・長期的に低下傾向**にある。  
※10年前と比較して、論文数：3位⇒5位、Top10%補正論文数：6位⇒13位、Top1%補正論文数：7位⇒12位
- 研究力の相対的・長期的な低下の背景のうち「研究資金」には以下のような課題があり、**学術研究を取り巻く状況は厳しさを増しつつある**。  
※1 基盤的経費等から定常的に措置される教員一人当たりの研究開発費が減少傾向（H13:中央値200万円→R3:中央値93万円）  
※2 科学研究費助成事業（科研費）の比較的少額な研究種目で応募件数が増加し、「基盤研究(C)」の充足率が低下（H25:77.6%→R5:72.3%）  
※3 消費者物価指数及び円ドル為替レートを考慮した一研究課題当たりの平均配分実質額が約10年間で半減（H25:100→R4:51.2）

資料1-2  
科学技術・学術審議会  
学術分科会（第91回）  
令和6年6月26日

## 2. 中間まとめの位置付け

- 研究力の相対的・長期的な低下傾向に歯止めをかけ、再び世界のトップレベルに返り咲くためにも、**科研費の質的・量的充実を図っていく必要がある**。
- 本中間まとめは、今期の**これまでの議論を総括**するとともに、第12期審議まとめに向けた**今後の議論の方向性を整理**したものである。

## 3. これまでの第12期研究費部会における議論及び今後の議論の方向性について

### （1）持続可能な審査システムの構築等

#### ①国際的に波及効果が高い学術研究の推進

- ・ 「国際共同研究加速基金」については、段階的に「基盤研究種目群」等に統合する。
- ・ 「基盤研究(A)・(B)・(C)」の**評定要素に「研究課題の国際性」を加え**、高く評価された研究課題の**研究費配分額を充実**させる。
- ・ 「基盤研究(B)・(C)」において、「研究課題の国際性」が高く評価された研究課題であって若手研究者を研究代表者とするものを優先的に採択する枠組み（**「国際・若手支援強化枠」**）を設け、高い国際競争力を有する研究の量的拡大を目指す。
- ・ 国際共同研究に適した研究費執行の枠組みとして、引き続き、特に**「基盤研究(A)」以上の大型の研究種目の基金化**を目指す。
- ・ 国際頭脳循環のサイクルをより効果的に構築するため、まずは「帰国発展研究」について、**新たに海外特別研究員の応募資格を認める**とともに、採択から交付申請までの**猶予期間を延長**する。

#### ②「学術変革領域研究」・「挑戦的研究」等の見直し、③重複応募・受給制限、④応募資格・要件、研究機関の指定、⑤その他

- ・ 学術変革領域研究(A)・(B)」の運用面における改善点を洗い出し、改善の方向性を導き出せるように検討を進める。
- ・ 研究種目の在り方等も踏まえつつ、検討を進める。

### （2）制度全体

中長期的な課題として**科研費予算の望ましい規模を検討**し、導出された予算額等の水準は、次期基本計画期間（R8年度～R12年度）における目標として位置付けるべき。

### （3）助成の在り方、研究費の枠組み等

「デュアルサポートシステム」の在り方が変化を迎えつつある中、今後とも「基盤研究種目群」において優れた研究を見出していけるよう、充足率、応募上限額、重複応募・受給制限等の在り方を中心に検討を進める。

### （4）その他

中規模研究設備の整備・共用を図るため、領域研究の枠組みにおける設備の共用の取組を強化することを含め、更なる取組を検討する。